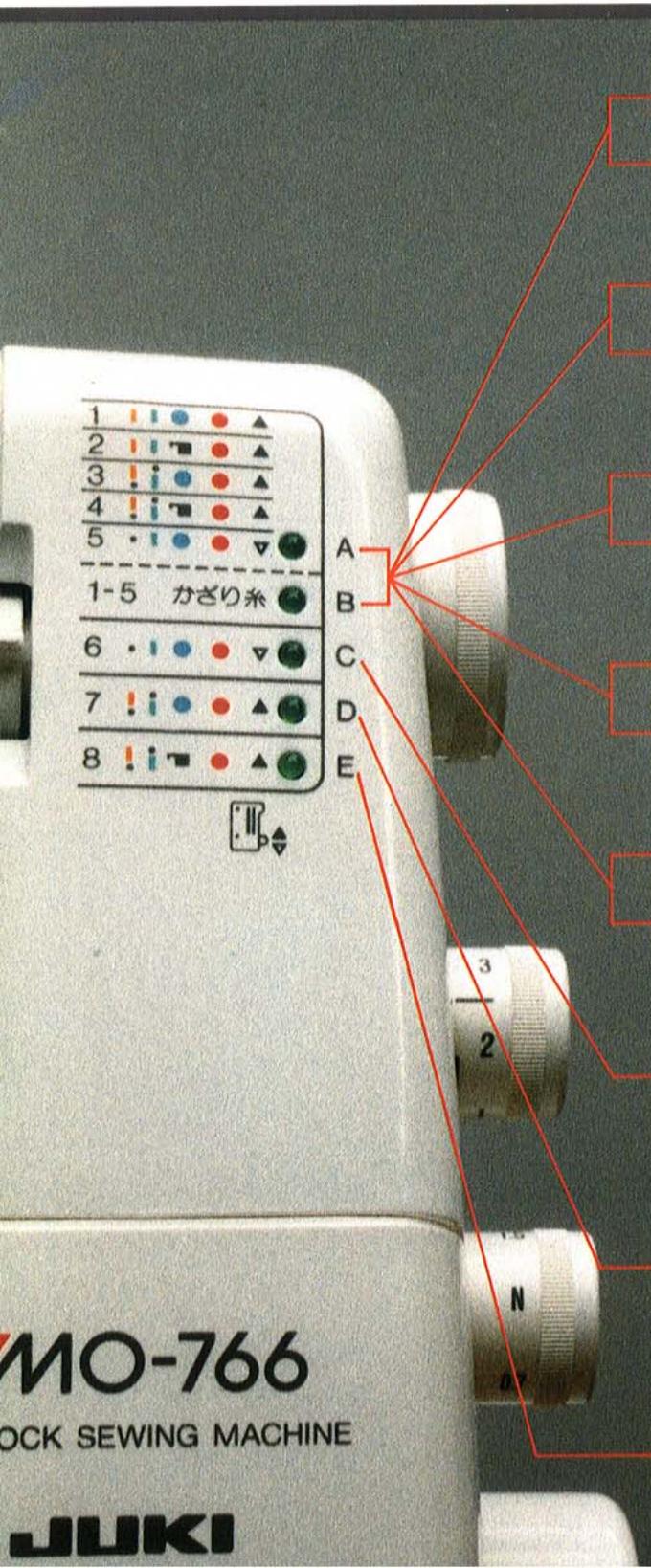
2本針・2／3／4本糸
差動送り付 オーバーロックミシン

MO-766

取扱説明書

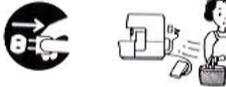
注意	安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように保管ください。

設定	使用糸	縫い目の種類
A	上,下ルーパー,左右針: スパン糸又は フィラメント糸	4本糸 合わせ縁かがり縫い
B	上,下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左右針: スパン糸又はフィラメント糸	
A	下ルーパー,左右針: スパン糸又は フィラメント糸	3本糸 スーパー ストレッチ縫い
B	下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左右針: スパン糸又はフィラメント糸	
A	上,下ルーパー,左/右針: スパン糸又は フィラメント糸	3本糸 合わせ縁かがり縫い
B	上,下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	
A	下ルーパー,左/右針: スパン糸又は フィラメント糸	2本糸 幅広巻き縫い
B	下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	
A	上,下ルーパー,右針: スパン糸又は フィラメント糸	3本糸 細ロック縫い
B	上,下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 右針: スパン糸又はフィラメント糸	
C	上ルーパー: ウーリー糸又は スパン糸 右針,下ルーパー: スパン糸又は フィラメント糸	3本糸 全巻き縫い
D	上ルーパー: ウーリー糸,スパン糸 レース糸,毛糸 下ルーパー,左/右針: スパン糸又は フィラメント糸	3本糸 飾り縫い
E	下ルーパー: ウーリー糸,スパン糸 レース糸,毛糸 左/右針: スパン糸又は フィラメント糸	2本糸 飾り縫い,縁かがり縫い

お買い上げ まことにありがとうございます。
このロックミシンの特長をご理解していただき、
正しく、安全にご使用していただくために
まず この「取扱説明書」をよくご覧ください。
ご覧になったあとは、保証書とともに、大切に保存してください。

安全にご使用していただくために

このミシンを安全にご使用していただくために、下記のことがらは必ずお守りください。
このミシンは日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY

このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
   - ・ミシンのそばを離れるとき。
   - ・ミシンをご使用になったあと。
   - ・ミシンのご使用中に停電したとき。

このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. コントローラーの上に物をのせないでください。

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

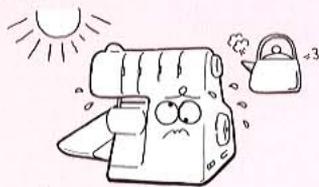
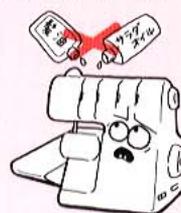
3. ミシンを操作するときはルーパーカバーなどカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、メス、ルーパー、はずみ車、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。

5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。

6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。
7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。

8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。
   - ・針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
   - ・針糸、ルーパー糸をセットするとき。
   - ・ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください。）
   - ・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
    - ・正常に作動しないとき。
    - ・落下などにより破損したとき。
    - ・水に濡れたとき。
    - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
    - ・異常な臭い、音がするとき。

直射日光が当る所、湿気の多い所には置かないでください。

・必ずミシン油をご使用ください

・掃除のときは中性洗剤で拭いてください

もくじ

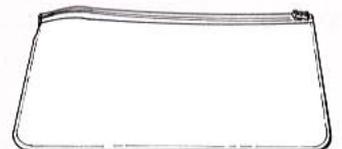
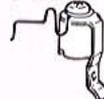
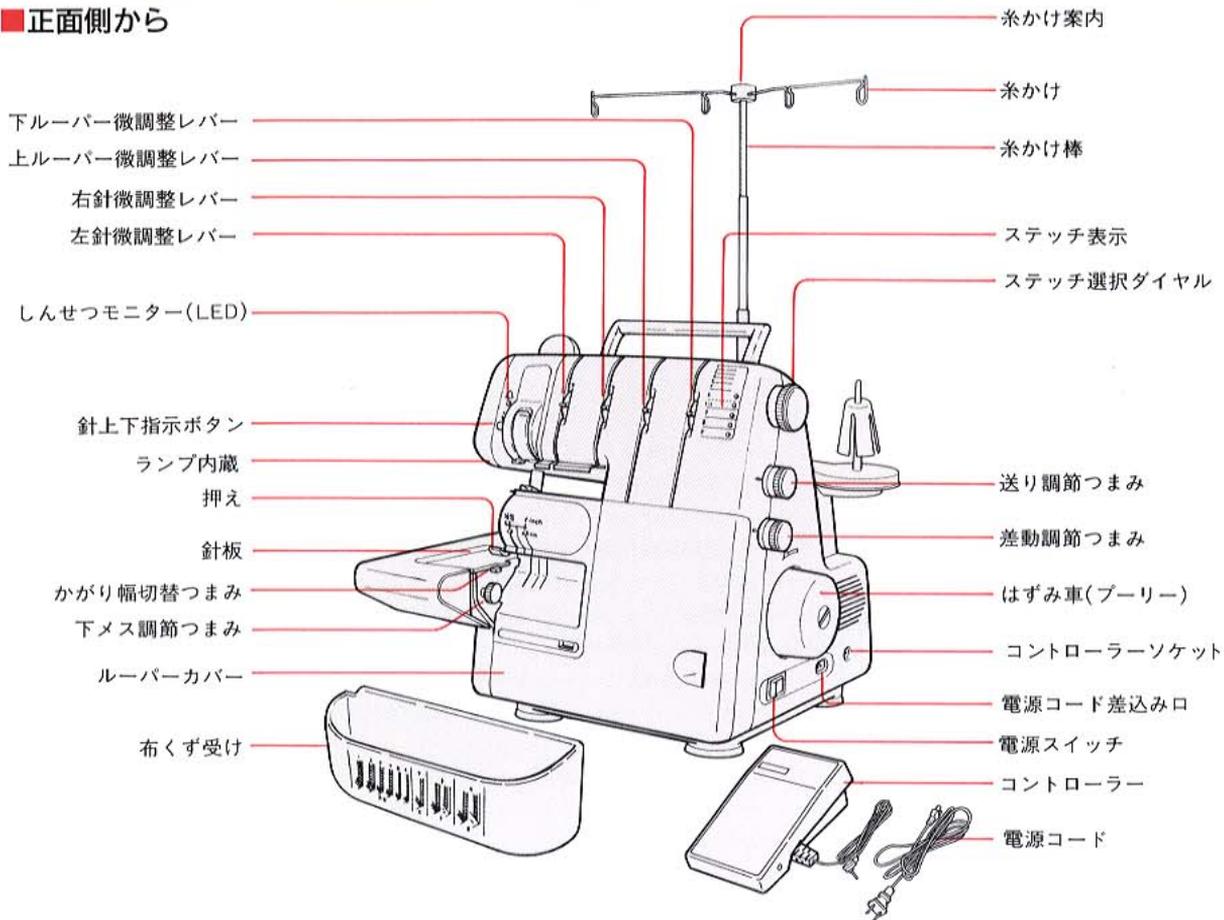
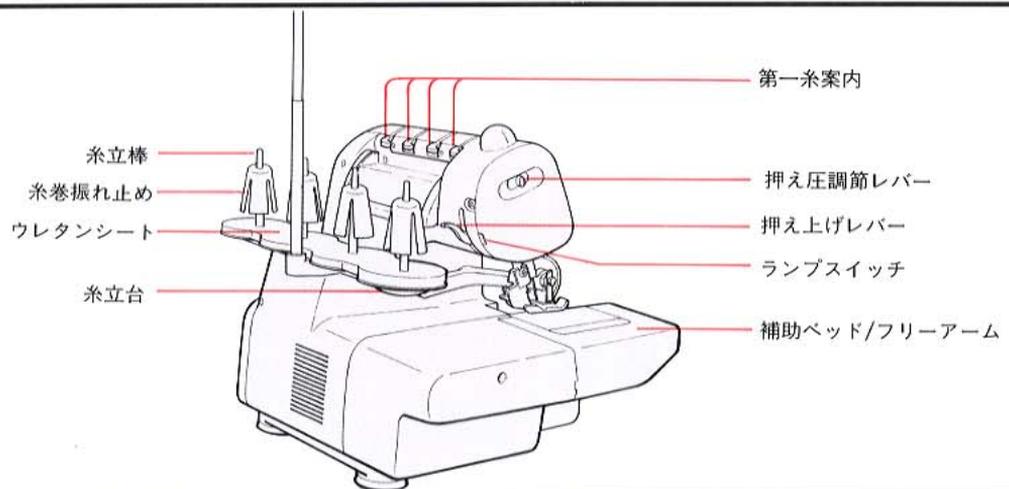
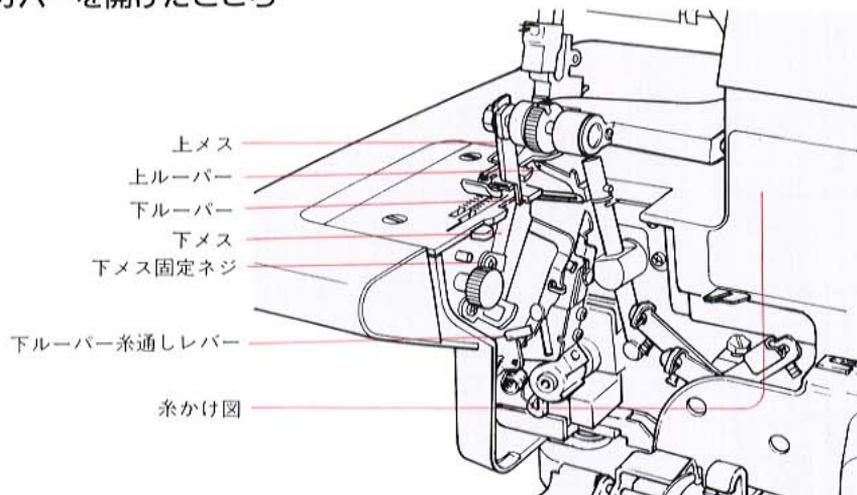
■付属品

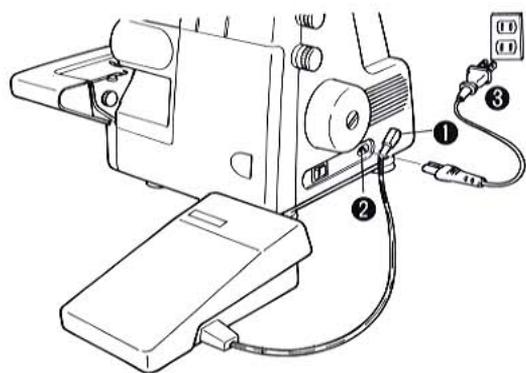
ルーパーカバー内
針ケース・針(HA×1SP)
ドライバー(小)
ピンセット
掃除用ブラシ/針セット棒
針糸通し器

ステッチガイド
ネット
糸ゴマ当て座
ミシンカバー
ドライバー(中)
ミシン油
2本糸切替アタッチメント
付属品袋

主な各部のなまえ

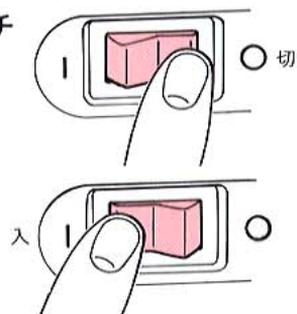
■正面側から

糸かけ案内
糸かけ
糸かけ棒
下ルーパー微調整レバー
上ルーパー微調整レバー
右針微調整レバー
左針微調整レバー
ステッチ表示
ステッチ選択ダイヤル
しんせつモニター(LED)
針上下指示ボタン
ランプ内蔵
押え
針板
かがり幅切替つまみ
下メス調節つまみ
ルーパーカバー
布くず受け
送り調節つまみ
差動調節つまみ
はずみ車(プーリー)
コントローラーソケット
電源コード差込み口
電源スイッチ
コントローラー
電源コード

■裏側から

■ルーパーカバーを開けたところ

動かす前の準備

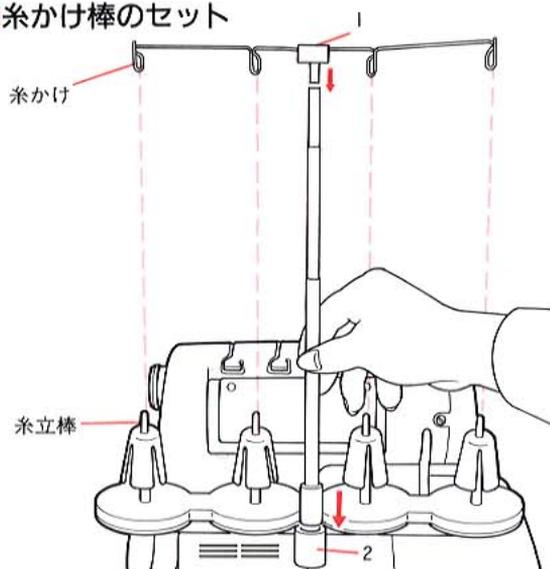
■コントローラーと電源コードのとりつけ

❶コントローラーのプラグをさし込みます。
❷電源コードをさし込みます。
❸室内コンセントへさし込みます。

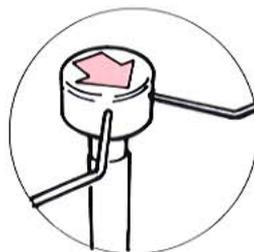
■ランプスイッチ

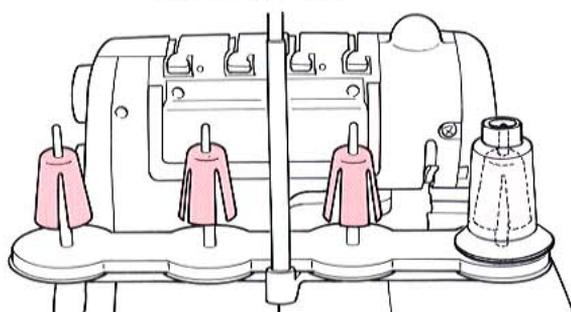
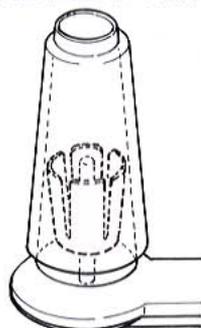
＊電源スイッチを入れないと
ランプは点灯しません。

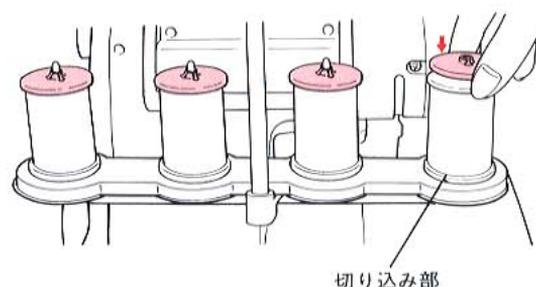
■電源スイッチ

⚠注意 ミシンをお使いにならないときは
下記のことを行ってください。

1. 電源ランプスイッチを○(切る)にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

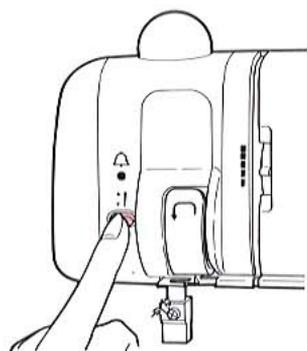
■糸かけ棒のセット

1. 糸かけ案内を糸かけ棒にさし込みます。
2. 糸かけ棒をミシン後部へさし込みます。
その時、糸かけが糸立棒の真上になるようにします。

※糸かけ案内先端の矢印を
ミシン正面に向けます。

■糸ゴマのセット

●ロック用糸の場合

●大型糸巻き糸の場合

内径の大きい糸巻き糸は
糸巻振れ止めを逆さにします。

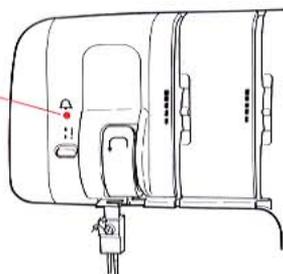
●家庭用糸ゴマの場合

糸巻振れ止めを抜きとり、糸ゴマの切り込み部を下に差し込み、糸ゴマ当て座の凸部を上に差し込みます。

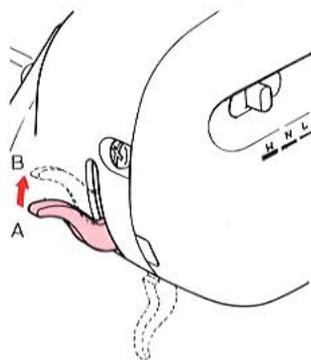
各操作部とはたらき

■針上下指示ボタン

●針が下にあるとき…
押しますと針が上にあがり。ます。
●針が上にあるとき…
押しますと下にさがります。

※押えが上がっているときと、ルーパーカバーが開いているときは動きません。

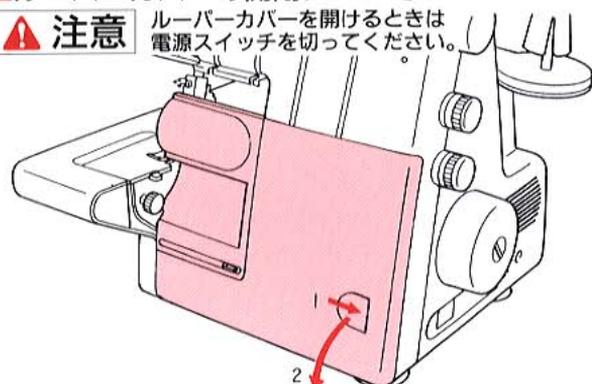
■しんせつモニター(LED)

押えを上げると表示ランプが点灯します。
押えを上げた状態とルーパーカバーを開いたままスタートさせるとランプが点滅します。そのときミシンは動きません。

■押え上げレバー

(糸かけをしやすくするため押えレバーをあげると糸調子皿が開らくようになっています。)

A. 通常の場合、A位置まで上がります。
B. 押えの交換や厚布など押えと針板とのすき間を必要とするとき、B位置まで上げます。

※押えが上がっているときはミシンは動きません。

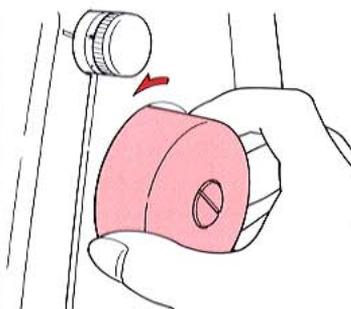
■ルーパーカバーの開閉について

⚠注意 ルーパーカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

●開け方
1. 右側へ引きます。
2. 手前に倒します。

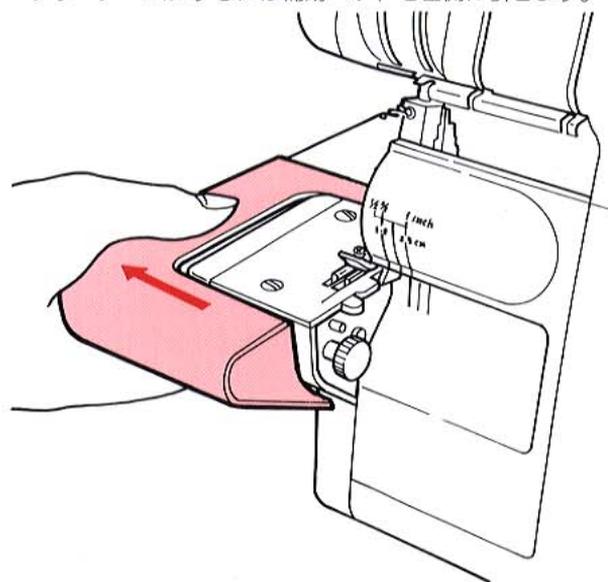
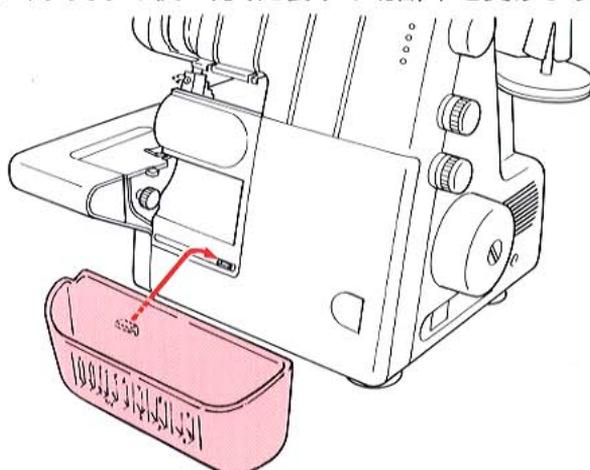
●閉じ方
ルーパーカバーを上にあげ、軽く向こう側に押すと自動的に閉じます。

※ルーパーカバーが開いているときは安全のためミシンは動きません。

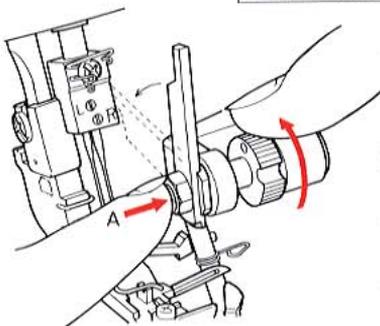
■はずみ車(プーリー)について

はずみ車は手前に回します

※糸を通したあと、縫い始め、縫い終りなど、はずみ車を回すときは必ず手前に回してください。

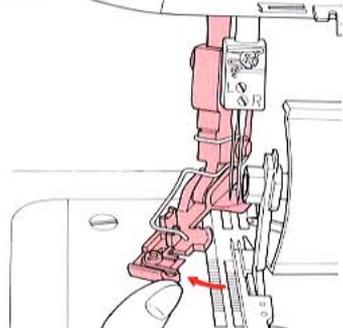
■補助ベッド/フリーアーム

フリーアームにするには補助ベットを左側に引きます。

■布くず受けの使い方(縫製中の切断布を受けます)

※布くず受けの正面に縫い目の種類とステッチ選択ダイヤルの表示記号がついていきますので、ご参考にして下さい。

■上メスの解除

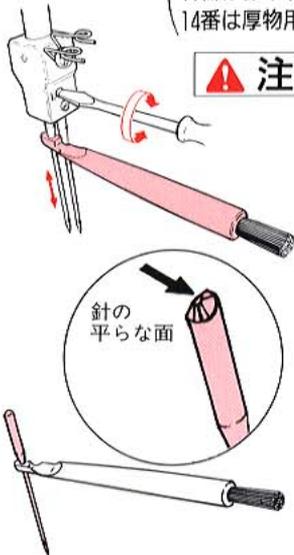
注意 上メス解除のときは電源スイッチを切ってください。

1. メスが一番上になる位置で止めて、ルーパーカバーを開けます。
2. A部を右いっぱいまで、押します。
3. その状態で右側のつまみを矢印の方向に回します。
4. 向こう側にしてストッパー位置で止めます。

■押えの解除(針への糸通しやテープ入れが容易になります)

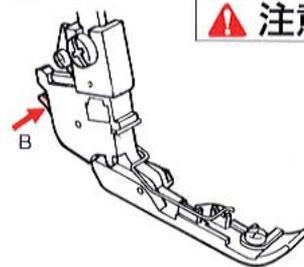
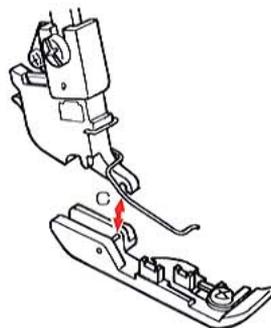
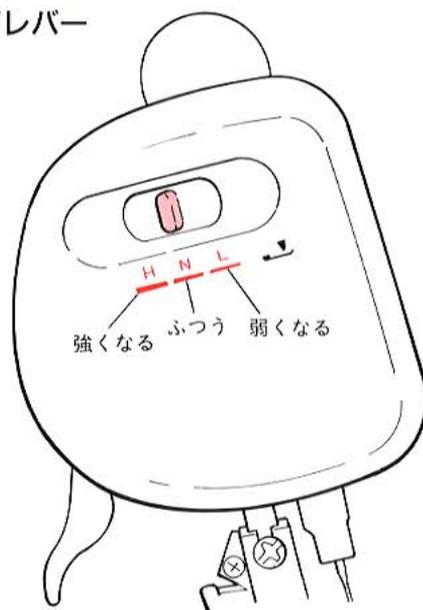
注意 押えを解除するときは電源スイッチを切ってください。

1. 針位置を一番上まであげます。
2. 押えを上げます。
3. 押えの手前を左側に押します。

■針の交換

(使用針は家庭用ミシン針のHA×1SPの11番、14番です。11番は標準(薄物、普通物用)です。14番は厚物用です。)

注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

1. 針を一番上まであげます。
2. 掃除用ブラシの反対側の針穴に針をさし込みます。
3. ドライバー(小)を使い針止めネジをゆるめて針をはずします。
4. 掃除用ブラシの針穴に新しい針の平らな面を向こう側にして針を入れ、針とりつけ溝穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。

■押えの交換

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1. 針を1番上まであげます。
2. 押えを上げます。
3. B部を押すと押えがはずれます。
4. 押えをとりつける場合は押え上げレバーを一番上にあげ、押えを下に置き、押えのピンをホルダーの溝の下に(C)正しく置き、押え上げレバーを下げれば自動的にセットされます。

■押え調節レバー

N：普通地、通常のとき合わせます。
H：押え圧力が強くなる。
デニム、ツイード、堅いリンネルなど厚手の布地。
L：押え圧力が弱くなる。
ジョーゼット、ローン、トリコットなど薄手の布地。

■布地・糸・針の関係

・かがり縫い、合わせかがり縫いの目安です。

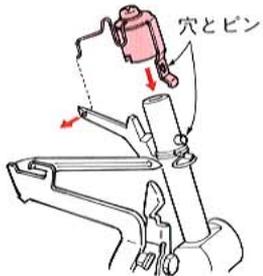
布地の種類		糸の種類	ミシン針
薄地	ジョーゼット、ローン トリコット	スパン糸　80番〜90番	HA×1SP　11番 (ニット針)
普通地	ポプリン、ギンガム ブロード、ギャバジン メリヤス	スパン糸　60番〜90番 フィラメント糸(テトロン)　50番〜80番	HA×1SP(ニット針) 11番〜14番
厚地	デニム、ツィード ジャージー	スパン糸　60番 フィラメント糸(テトロン)　60番	HA×1SP　14番 (ニット針)

ステッチ選択

このロックミシンは８種類のステッチ（縫い目）仕様の
糸調子がセットされています。

基本ステッチ…５種類、
２本糸切替アタッチメント使用…３種類 } 計８種類

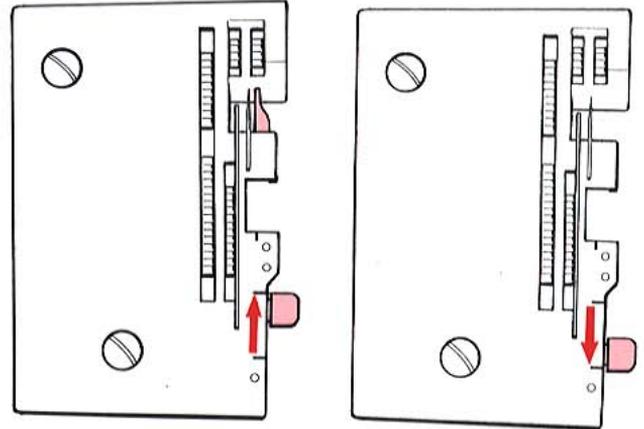
種類	項　　目	糸数	針数	ステッチ仕様
1	基本ステッチ	４本糸	２本	合わせ縁かがり
2		３本糸	１本	合わせ縁かがり
3				飾り縫い
4				全巻き縫い
5				細ロック
6	付属の２本糸切替アタッチメント使用	３本糸	２本	スーパーストレッチ縫い
7		２本糸	１本	幅広巻き縫い
8				飾り縫い、縁かがり

■２本糸切替アタッチメントの取付け方

1. 上ルーパー軸の上にかぶせて、穴とピンを合わせます。
2. ルーパー穴に針金部をさし込みます。
3. 下ルーパー糸の糸かけのときは針金部を越えて押えの下へ糸をもって行きます。

⚠ 注意　２本糸切替アタッチメント取り付けのときは、電源スイッチを切ってください。

■かがり幅切替つまみ

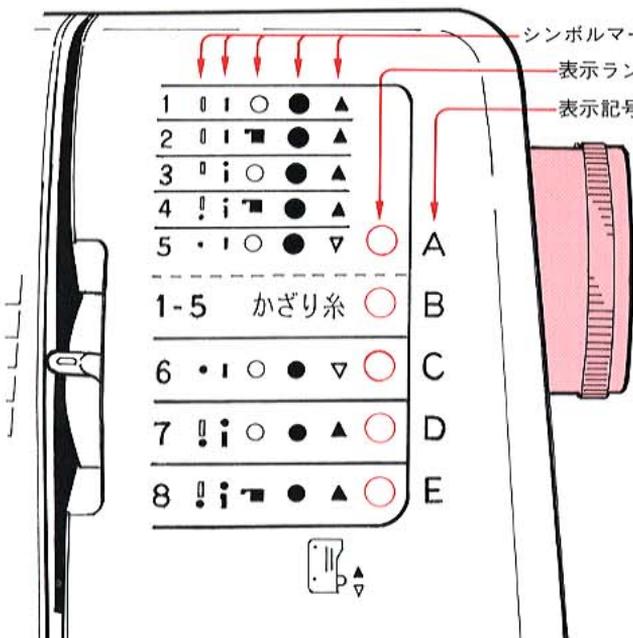
●縁かがり縫いの場合：

●全巻き縫い、細ロックの場合：

・送り調節つまみ目盛：１～1.5
・下メス調節つまみ目盛：１～２
・差動調節つまみ目盛：Ｎ～0.7

■左・右針と縫い目の幅

	左　針	右　針	左右針
かがり縫い	５～７㎜	３～５㎜	５～７㎜（３～５㎜）
全巻き縫い 細ロック	－	２㎜	－

■ステッチ選択ダイヤル

Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅの表示記号に８種類のステッチ仕様を当てはめてステッチ選択ダイヤルを回します。
Ａ～Ｅの表示記号を選びますとランプが点灯します。選ばれた表示記号のステッチ仕様に設定されます。

表示Ａ，Ｃ，Ｄ，Ｅは下表のステッチ仕様に設定されています。
表示Ｂは表示Ａと同じですが上ルーパー又は上下ルーパーにウーリー糸や飾り糸などを使った仕様に設定されています。

表示記号	ステッチ仕様	上ルーパーや下ルーパーに使用する糸
Ａ	４本糸合わせ縁かがり縫い ３本糸スーパーストレッチ縫い ３本糸合わせ縁かがり縫い ２本糸幅広巻き縫い ３本糸細ロック縫い	スパン糸又はフィラメント糸
Ｂ	上記ステッチ仕様と同じ	ウーリー糸、飾り糸、毛糸など
Ｃ	３本糸全巻き縫い	スパン糸又はウーリー糸
Ｄ	３本糸飾り縫い	スパン糸、ウーリー糸、飾り糸
Ｅ	２本糸飾り縫い、縁かがり、	スパン糸、ウーリー糸、飾り糸

※ステッチ選択ダイヤルで各種のステッチが選ばれますが布地や糸の違いによって糸調子の調整が必要なときは11ページをご参照ください。

ステッチ選択一覧表

No.	ステッチ仕様	シンボルマーク	縫い目の幅	ステッチ表示記号	使用糸	各調節つまみの目安	縫い目(例)と用途
1	4本糸 合わせ縁かがり縫い	▯ ▮ ○ ● ▲	5~7㎜(左,右針)	A	上,下ルーパー 左,右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:2.5 下メス調節:1~2.5 差動調節:ニット地 N~2 織 布 N~0.7	スエット、ダブルニット地のアウターなどに。
				B	上,下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左,右針: スパン糸又はフィラメント糸		
2	3本糸 スーパーストレッチ縫い	▯ ▮ ■ ● ▲	5~7㎜(左,右針)	A	下ルーパー,左,右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:2.5 下メス調節:1 差動調節:N~2	スパッツ,レオタード,水着などの伸縮地に。
				B	下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左,右針: スパン糸又はフィラメント糸		
3	3本糸 合わせ縁かがり縫い	! i ○ ● ▲	5~7㎜(左針)	A	上,下ルーパー 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:2.5 下メス調節:1~2.5 差動調節:ニット地 N~2 織 布 N~0.7	Tシャツ,薄地のブラウス,スカートなどに。
			3~5㎜(右針)	B	上,下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:1~2 下メス調節:1~2.5 差動調節:0.7~1.5	
4	2本糸 幅広巻き縫い	! i ■ ● ▲	5~7㎜(左針)	A	下ルーパー 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:1~2.5 下メス調節:2 差動調節:ニット地 N~2 織 布 N~0.7	テーブルセンター,ランチョンマット,その他インテリア小物などに。
			3~5㎜(右針)	B	下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:1~2 下メス調節:1~2 差動調節:0.7~1.5	
5	3本糸 細ロック縫い	• ▮ ○ ● ▽	2㎜(右針)	A	上,下ルーパー,右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:1~1.5 下メス調節:1~2 差動調節:N~0.7	薄地のブラウスの衿・フリル,薄地スカートの裾,スカーフ,ハンカチなど
				B	上,下ルーパー: ウーリー糸,飾り糸 右針: スパン糸又はフィラメント糸		
6	3本糸 全巻き縫い	• ▮ ○ ● ▽	2㎜(右針)	C	上ルーパー: ウーリー糸,スパン糸 右針,下ルーパー: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:1~1.5 下メス調節:1~2 差動調節:N~0.7	薄地のブラウスの衿・フリルやスカートの裾、スカーフ、ハンカチなどに。
7	3本糸 飾り縫い	! i ○ ● ▲	5~7㎜(左針) 3~5㎜(右針)	D	上ルーパー: ウーリー糸,スパン糸 レース糸,毛糸 下ルーパー,左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:2~2.5 下メス調節:1~2 差動調節:N	中薄地のプルオーバーなどに。
8	2本糸 飾り縫い,縁かがり,	! i ■ ● ▲	5~7㎜(左針) 3~5㎜(右針)	E	下ルーパー: ウーリー糸,スパン糸 レース糸,毛糸 左/右針: スパン糸又はフィラメント糸	送り調節:2~2.5 下メス調節:1~2 差動調節:N	トレーナー、ブルゾンなどのアクセント。インテリア小物の飾りなどに。

※表紙のカラー写真をご参考にしてください。

シンボルマークの説明

右針
左針
上ルーパー
下ルーパー
左右針使用
かがり幅切替つまみ位置
通常のかがり縫い(切替つまみを向こう側にします)
左針か右針を使用
全巻き、細ロックのとき(切替つまみを手前にします)
2本糸切替アタッチメントを使用(上ルーパー糸は使用しません)
左針をとる

1-5 かざり糸 ○ B

上ルーパー又は上下ルーパーにウーリー糸や飾り糸などを使用するとき、表示記号Bを選びます。

糸のかけ方

美しい縫い目をつくるには………
正しい糸かけ順序で糸を通さねばなりません。

■準備

⚠注意 糸かけ、糸通しのときは電源スイッチを切ってください。

1．糸かけ案内をつけた糸かけ棒を一番上までのばします。
2．針を一番上にします。
3．押えを上げます。
4．ルーパーカバーをあけます。

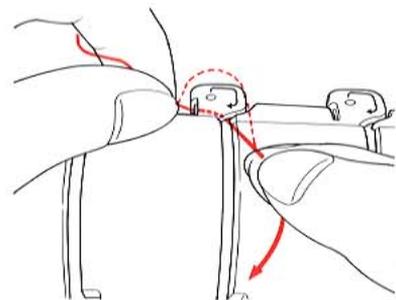
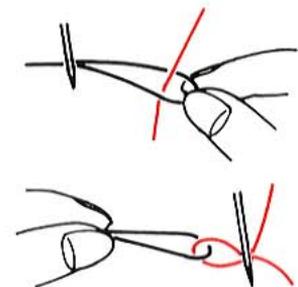
※上メスを解除しますとさらに糸通しが容易になります。

■糸かけ順序

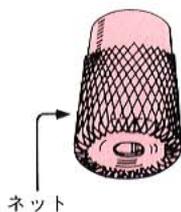
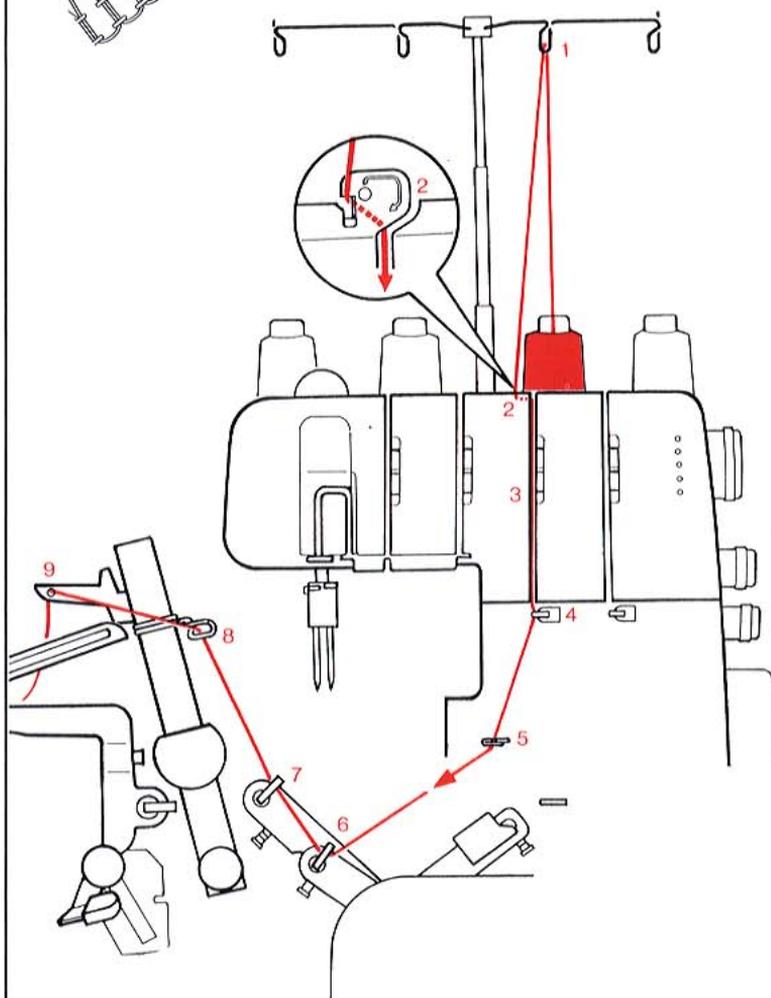
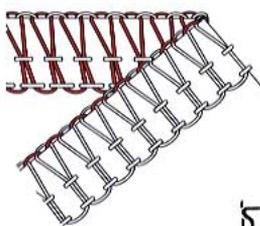
糸かけ順序を明確にするために糸かけ図と色表示がついています。
糸かけ手順は下記の順序で行います。

最初に、上ルーパー糸（青色印）
2番目に、下ルーパー糸（赤色印）
3番目に、右針糸（緑色印）
4番目に、左針糸（黄色印）

糸かけ、糸通しにはルーパーカバー裏面に付属されているピンセット、針糸通し器を使うと便利です。

■第1糸案内の糸のかけ方

糸かけ棒へかけた糸を下へもってきて第1糸案内の左側からかけて、下を通って手前に持ってきます。

■針糸通し器

針糸通し器に糸を入れ、針糸通し器の先端から針穴やルーパー穴に入れ、糸を引き出します。

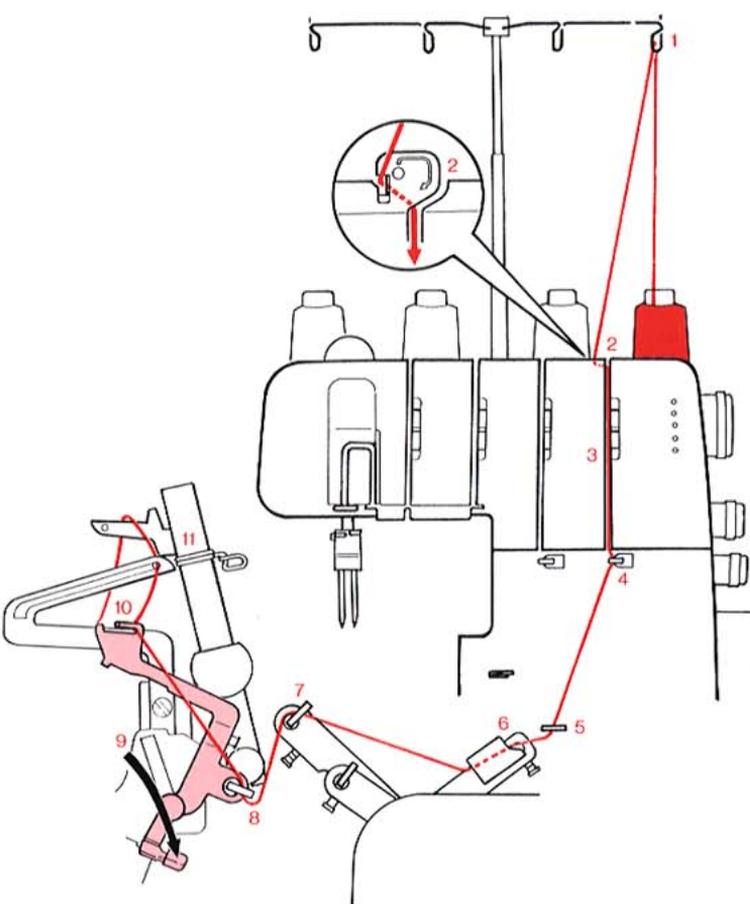
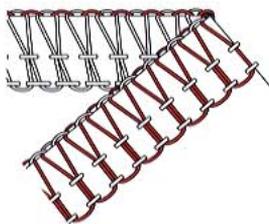
●よりの強い糸にはネットをご使用ください。
付属のネットを上ルーパー、下ルーパーの糸ゴマにかぶせますと糸あばれがなくなります。

糸かけ順序(1)

1番目の糸かけ 上ルーパー糸（青印）

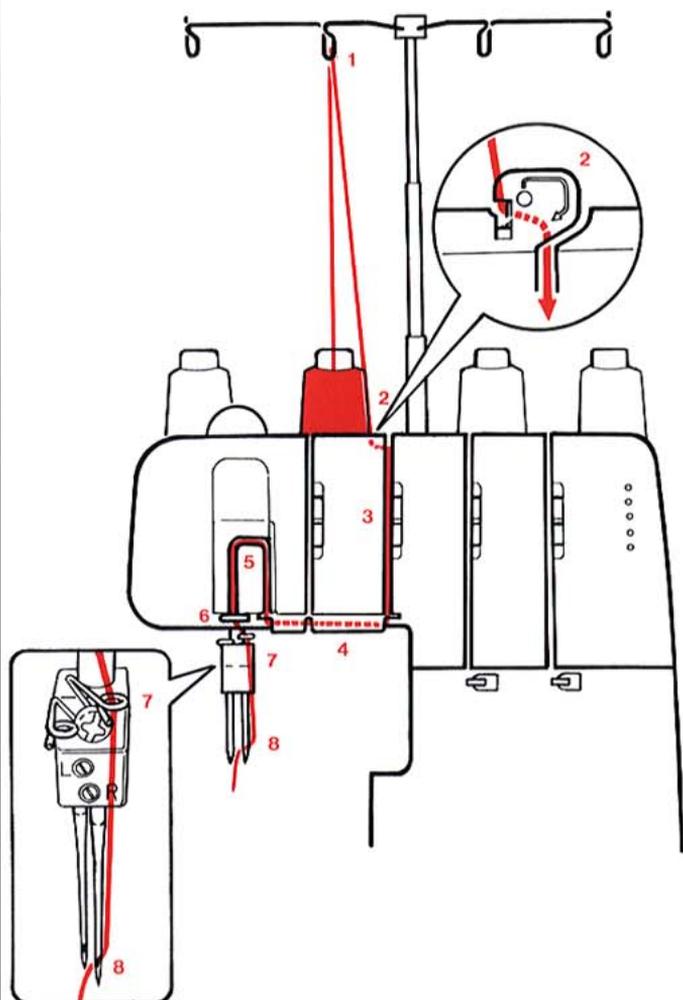
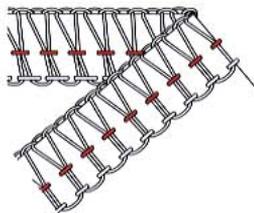
（1）糸ゴマから青色印の糸かけ案内の後から前にかけます。
（2）第1糸案内にかけます。
（3）溝に入れます。
（4、5、6、7、8）糸案内にかけます。
（9）はずみ車を回し、上ルーパーが上にくる位置で糸を通します。
（10）糸の先端を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

※押えが上っているか再度確かめます。
押えが下っていると糸調子皿が開きません。

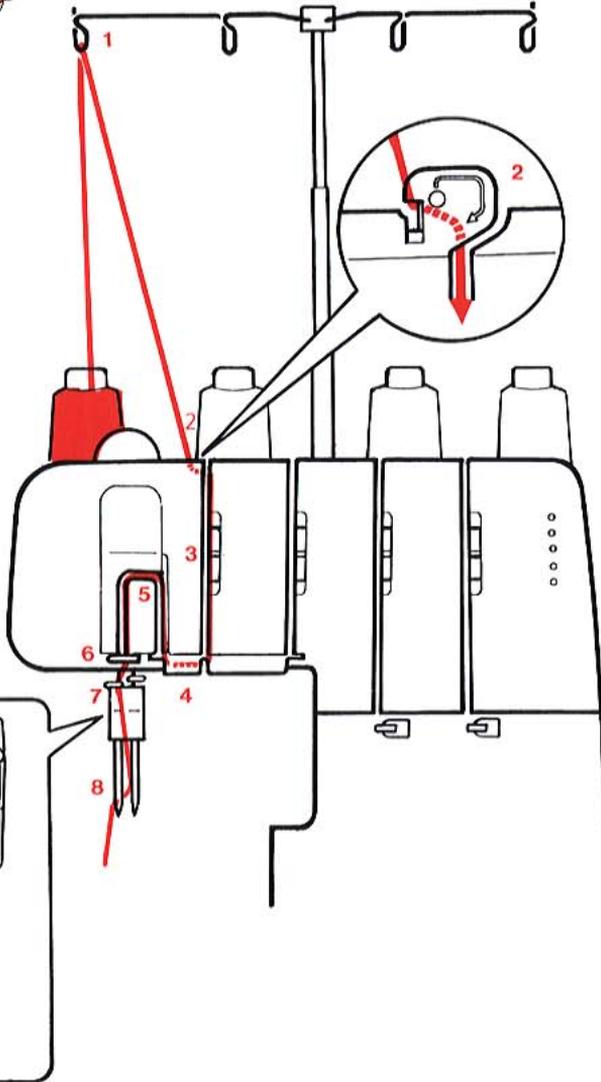
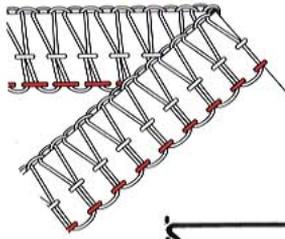
糸かけ順序(2)

2番目の糸かけ 下ルーパー糸（赤印）

(1)糸ゴマから糸を赤色印の糸かけ案内にかけます。
(2)第1糸案内にかけます。
(3)溝に入れます。
(4、5、6、7、8)糸案内にかけます。
(9)糸通しレバーをさげます。
(10)糸案内にかけます。
(11)下ルーパー穴に糸を通し、後ろへ10cmぐらい出します。
(12)はずみ車を手前に回しますと糸通しレバーが上がります。
(13)引き出した糸を上ルーパーの上方から下へもって行き、押えの下に入れ、後ろに出します。

糸かけ順序(3)

3番目の糸かけ 右針糸（緑印）

(1)糸ゴマから糸を緑色印の糸かけ案内にかけます。
(2)第1糸案内にかけます。
(3)溝に入れます。
(4)糸案内板の下に糸をかけます。
(5)天びんカバーの溝に入れます。
(6)糸案内にかけます。
(7)針棒糸案内にかけます。
(8)針が最上の位置で右針に糸を通します。
(9)糸を押えの下にして約10cm後ろへ引き出します。

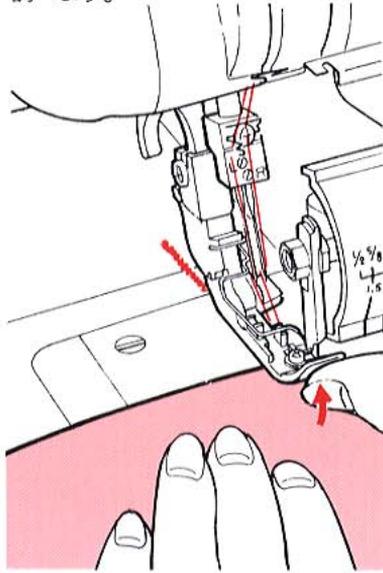
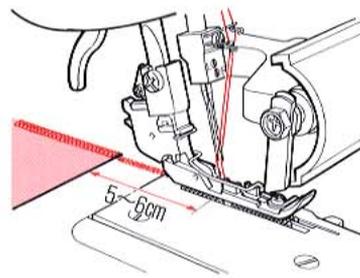
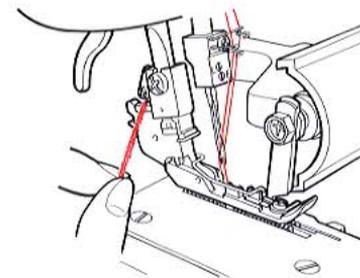
糸かけ順序(4)

4番目の糸かけ 左針糸（黄印）

(1)糸ゴマからの糸を黄色印の糸かけ案内にかけます。
(2)第1糸案内にかけます。
(3)溝に入れます。
(4)糸案内板の下に糸をかけます。
(5)天びんカバーの溝に入れます。
(6)糸案内にかけます。
(7)針棒糸案内にかけます。
(8)針が最上の位置で左針に糸を通します。
(9)糸を押えの下にして約10cm後ろへ引き出します。

糸通しが終ったら、上メスを下げ、ルーパーカバーを閉じます。

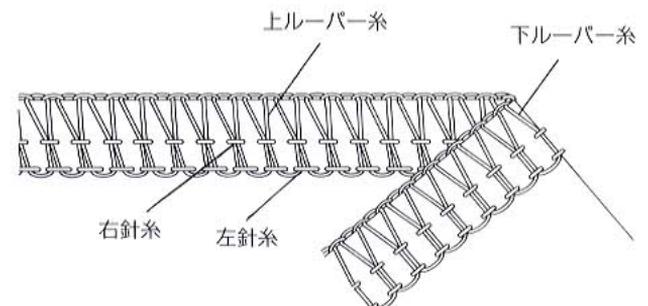
ためし縫い・正しい縫い目

■糸かけが終ったら、ためし縫いをしてみましょう！

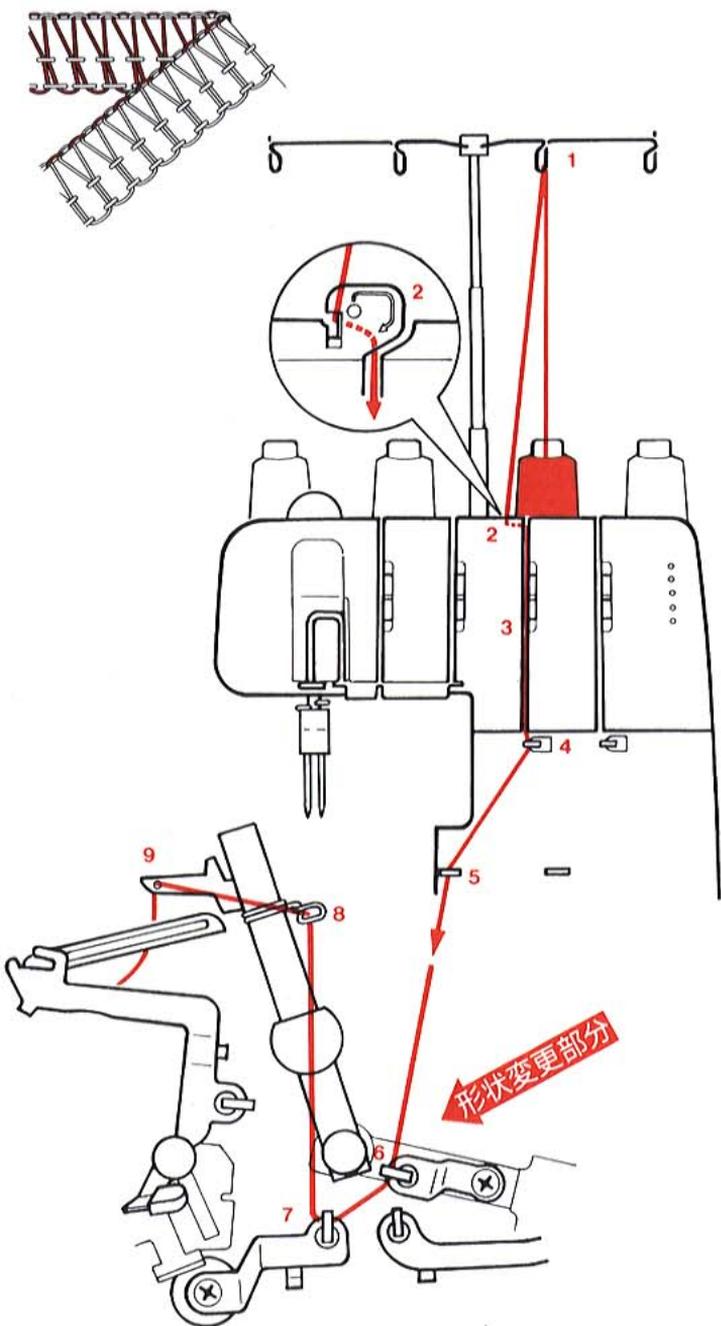
二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうか、調べます。

1. 上メスが下がっているかを確かめます。
2. 押えを下げます。
3. 糸かけした糸を押えの後ろ側で持ち、コントローラーを踏んで空環を6～7cm出します。
4. 押えの手前を指先で上げ布地を上メスのところまで入れます。
5. スタートさせます。

6. 縫い終ったら5～6cm空環を出します。

7. 片手で布地を押え、押えの後ろ側の糸切りに空環をかけて切ります。

※空環（からかん）とは：布地がなくて、糸の縫い目形状ができたものです

■正しい縫い目（2本針4本糸の例）

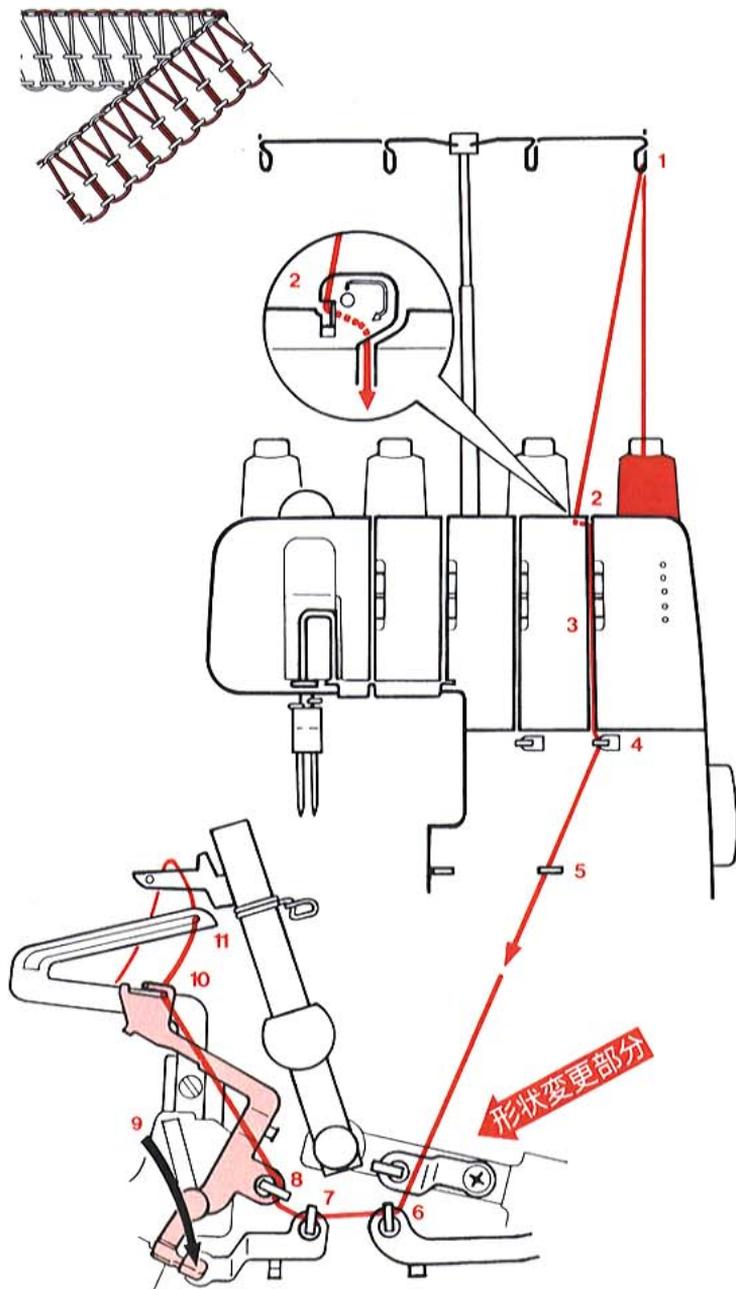
- 布端で上ルーパー糸と下ルーパー糸がからみ合っている。
- 左針糸と右針糸が布表、裏の両面から見て糸の浮きや遊びがない。

お確かめください！　このロックミシンは糸かけ部分の形状変更されたものがあります。
お手持ちのミシン本体をご覧になり、取扱説明書８、９ページの糸かけ順序(1)、(2)と
この印刷物とを確かめて、このものでしたら保存してください。

糸かけ順序(1)

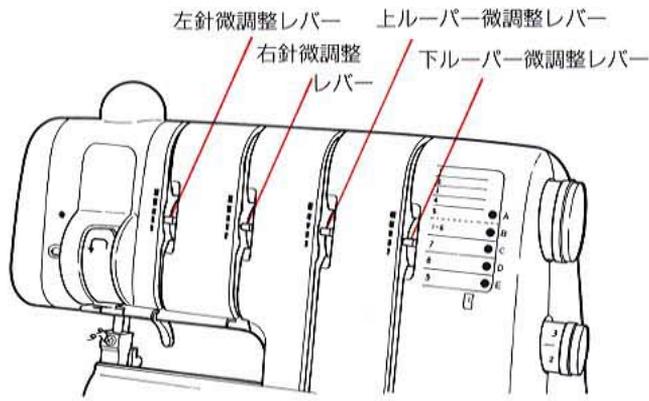
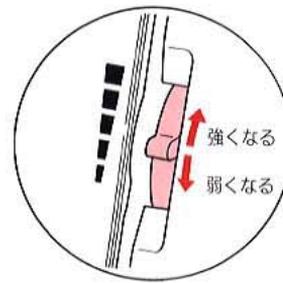
1番目の糸かけ 上ルーパー糸（青印）

（1）糸ゴマから青色印の糸かけ案内の後から前にかけます。
（2）第１糸案内にかけます。
（3）溝に入れます。
（4、5、6、7、8）糸案内にかけます。
（9）はずみ車を回し、上ルーパーが上にくる位置で糸を通します。
（10）糸の先端を約10cm引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

※押えが上っているか再度確かめます。
押えが下っていると糸調子皿が開きません。

糸かけ順序(2)

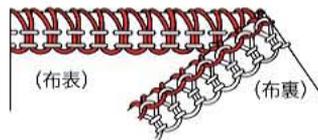
2番目の糸かけ 下ルーパー糸（赤印）

（1）糸ゴマから糸を赤色印の糸かけ案内にかけます。
（2）第１糸案内にかけます。
（3）溝に入れます。
（4、5、6、7、8）糸案内にかけます。
（9）糸通しレバーをさげます。
（10）糸案内にかけます。
（11）下ルーパー穴に糸を通し、後ろへ10cmぐらい出します。
（12）はずみ車を手前に回しますと糸通しレバーが上がります。
（13）引き出した糸を上ルーパーの上方から下へもって行き、押えの下に入れ、後ろに出します。

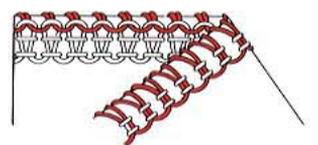
糸調子の微調整

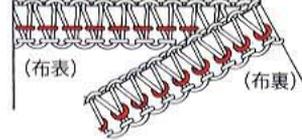
■各糸調子の微調整について

ステッチ選択ダイヤルで各種のステッチが選ばれますが布地や糸の違いによって調整が必要なときは各微調整レバーで調整します。

微調整レバーを上にすると糸調子が強くなり、下にすると弱くなります。

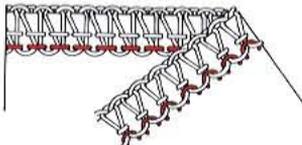
■微調整が必要な縫い目の例

●3,4本糸 合わせ縁かがり縫い

・上ルーパー糸が布裏までいっている。

➡上ルーパー糸を強めるか下ルーパー糸を弱めます。

・下ルーパー糸が布表まできている。

➡下ルーパー糸を強めるか上ルーパー糸を弱めます。

・右針糸が弱く布裏でループ状になっている。

➡右針糸を強めます。

・左針糸が弱く布裏でループ状になっている。

➡左針糸を強めます。

●3本糸 スーパーストレッチ縫い
●2本糸 幅広巻き縫い

・左針糸が弱く布裏でループ状になっている。

➡左針糸を強くするか下ルーパー糸を弱めます。

●3本糸 細ロック縫い

・上ルーパー糸が布裏に行きすぎている。

➡上ルーパー糸を強め、針糸も強めます。

●3本糸 全巻き縫い

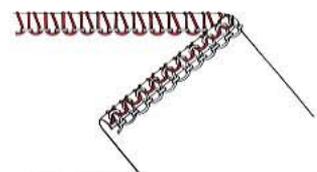
・針糸と下ルーパー糸が布裏で一線上になっていない。

➡下ルーパー糸又は針糸を強めるか、上ルーパー糸を弱めます。

●3本糸 飾り縫い

・下ルーパー糸が布表にきすぎている。

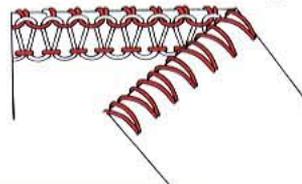
➡上ルーパー糸を弱めるか針糸か下ルーパー糸を強めます。

・下ルーパー糸が布裏に行きすぎている。

➡上ルーパー糸又は下ルーパー糸を強めるか、針糸を弱めます。

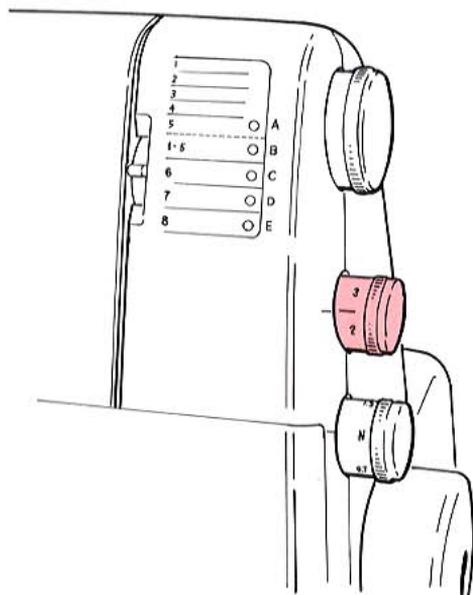
●2本糸 飾り縫い、縁かがり

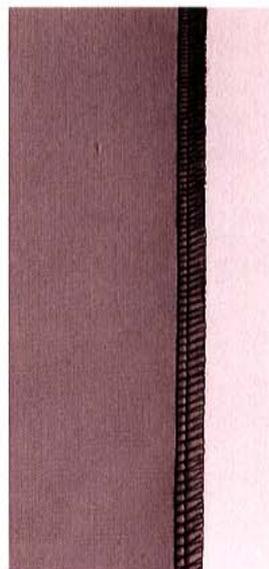
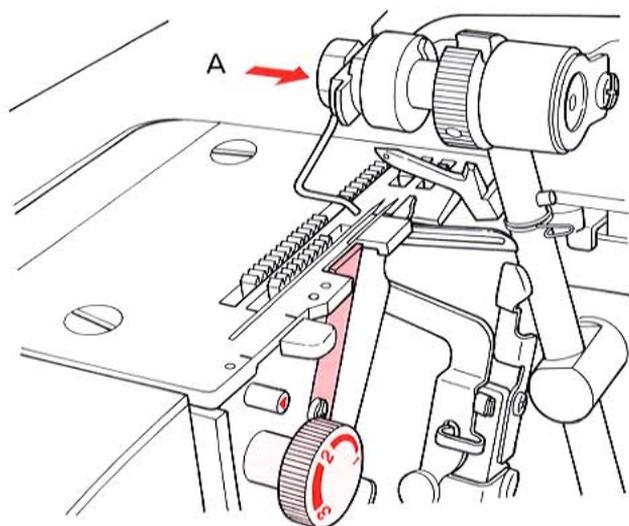
・下ルーパー糸が布裏に行きすぎている。

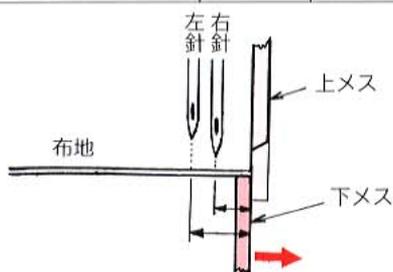
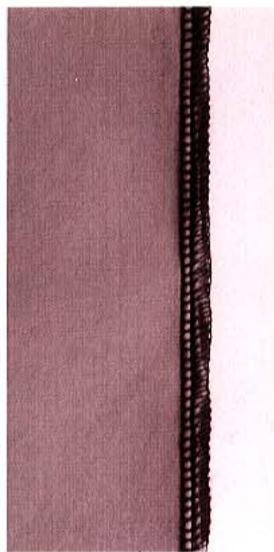
➡下ルーパー糸を強めるか針糸を弱めます。

・針糸が布表にきすぎている。

➡下ルーパー糸を弱めるか針糸を強めます。

送り調節・下メス調整

■送り調節つまみ（縫い目の長さ調節）

縫い中でも「1～4」の範囲で調節できます。

- 普通の縁かがりは「2.5」が標準です。
- 全巻き縫い、細ロック縫いは「1～1.5」が最適です。
- ブラインドステッチ（まつり縫い）『別売の押えを使用』は「4」にします。

■下メス調整つまみ（かがり幅と布端カット位置の調節）

上メスを解除するか、A部を押しながら
下メス調節つまみを回します。

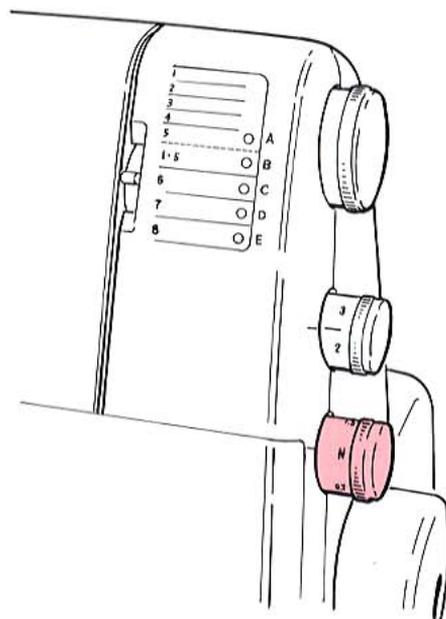
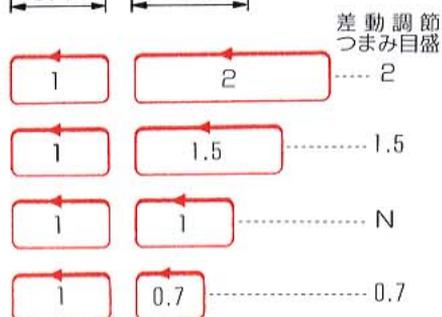
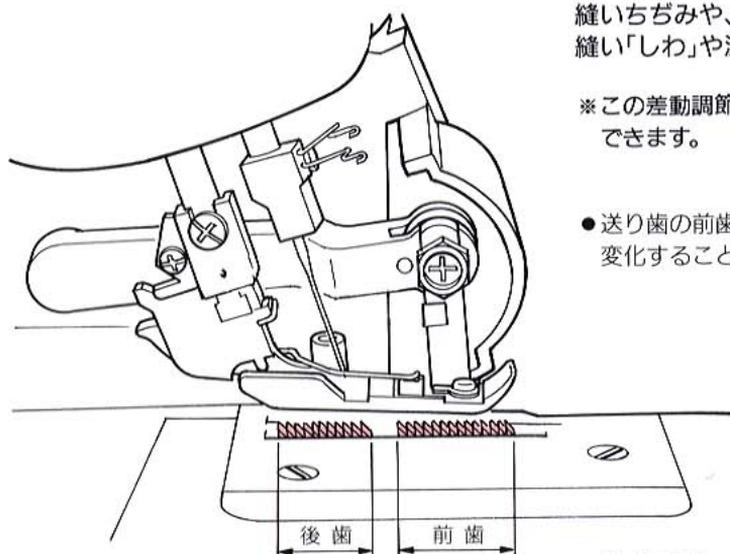
下メス調節つまみ目盛	1	2	3
右針と布カット幅	3㎜	4㎜	5㎜
左針と布カット幅	5㎜	6㎜	7㎜

- 縫い目に布端がとどかない。
  （縫い目の中で布端にすき間がある）
  ・つまみの目盛を大きくします。

- 縫い目に布端が飛び出しているか、カールしている。
  ・つまみの目盛を小さくします。

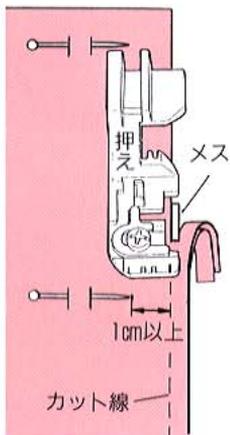
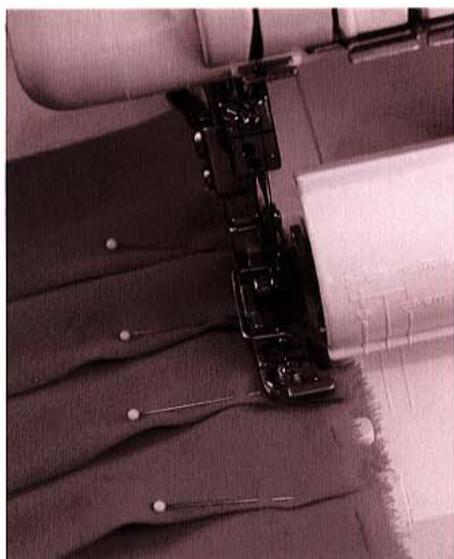
差動調節

■差動調節つまみ

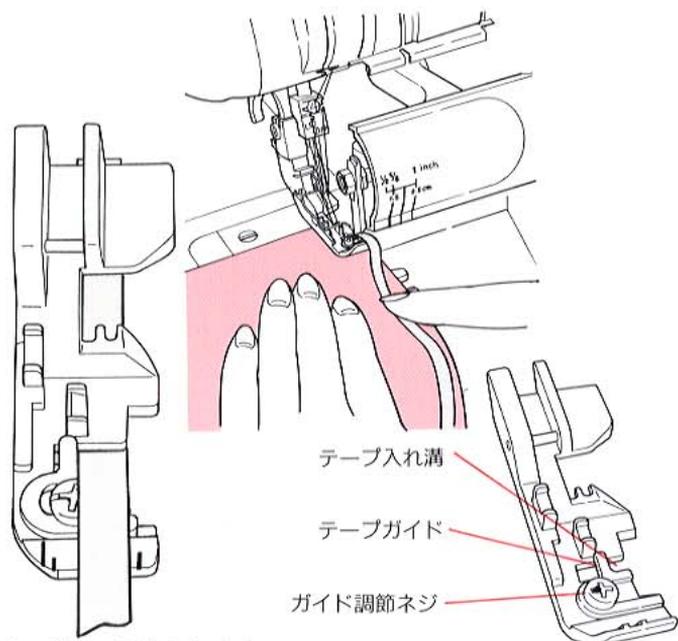
縫いちぢみや、縫い伸びしやすい布地は差動調節つまみを使いますと縫い「しわ」や波うった布地が平らに美しく仕上ります。

※この差動調節を応用して、一枚の布地にギャザー寄せ(14ページ参照)ができます。

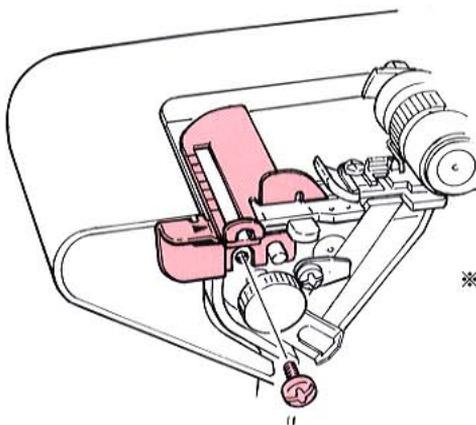
●送り歯の前歯と後歯の動きの速さを変化することにより調節します。

	縫い伸びしやすい布地			縫いちぢみしやすい布地
布地	厚地ニット地 厚地ジャージー その他伸びる布地	中厚ニット地 メリヤス ジャージー	織　布	ジョーゼット リネン，サテン ローン
差動つまみ目盛	N → 1.5~2	N → 1.5	N(差動なし)	N → 0.7
差動調節 有無の縫い目				

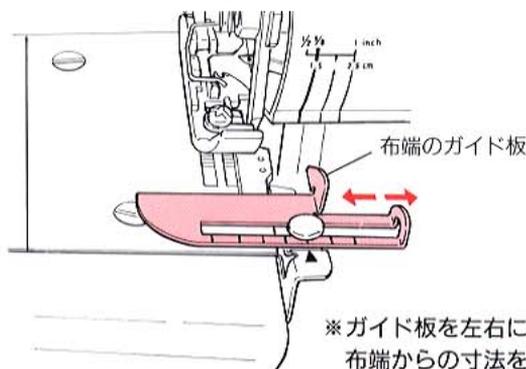
■まち針の打ち方

2枚の布地をずれないように縫い合わせるためにまち針を打ちますがロックミシンにはメスが内臓されていますから、メスにまち針が当たりますとメスが破損します。そのためにメス位置より離してまち針を打ってください。
どうしても布端近くにまち針を打つときは縫い中まち針が上メスの近くに来ましたら必ず、まち針をはずしてください。

■テープ付け

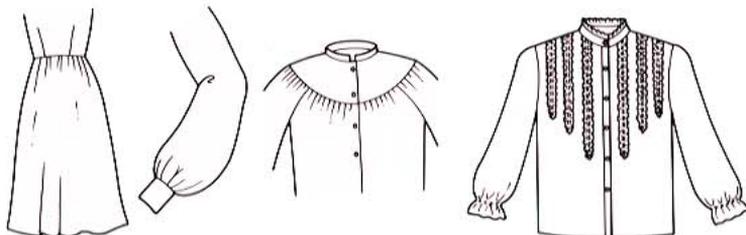
ニット地などの伸縮性がある布地の肩線や脇線などに使います。伸び止めテープを縫い付けますと必要以上伸びません。

1．針を一番上にします。
2．押えを上げて、テープを押えのテープ入れ溝に右側から入れて、押えを下げます。
3．ガイド調節ネジをゆるめてテープガイドをテープの幅に合わせて、ガイド調節ネジをしめます。
4．針上下指示ボタンでテープの上に針を落とします。
5．縫いつける布を押えの下におきます。
6．テープを軽く保持しながら縫います。

■ステッチガイドの使い方

布地の端より一定の寸法でカットして縫うとき、また、上メスを解除して（飾り縫いなど）縫うときステッチガイドを使いますと寸法が安定します。

※下メス調節つまみの上にあるネジをゆるめて、取り付けます。

※ガイド板を左右に動かして、布端からの寸法を決めます。

■ギャザーの寄せ方

薄地、普通地の一枚の布地にギャザー寄せができます。

（例）スリーブヘッド、裾、ヨーク、レース、フリルなど

1．差動調節つまみの目盛を「2」に合わせます。
2．送り調節つまみの目盛を「4」に合わせます。

4本糸ギャザー寄せ

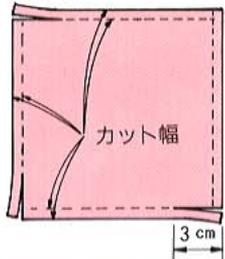
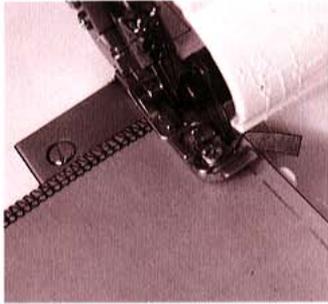
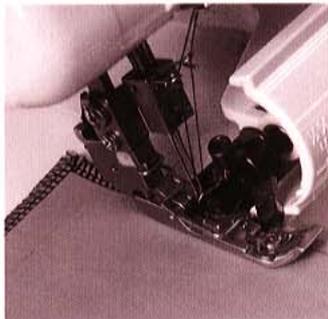
3本糸ギャザー寄せ

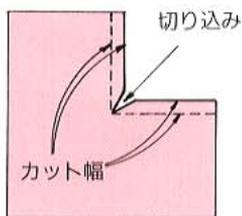
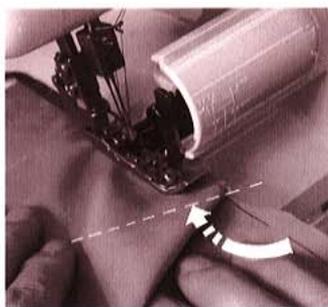
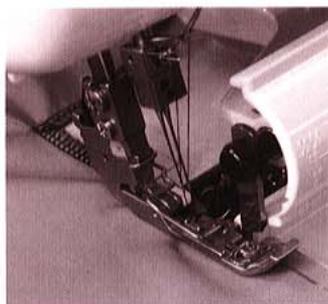
※極端にギャザーを寄せるときは縫い上がってから針糸を指で引張ります。

※差動送りをしない場合、差動調節つまみを「N」に戻します。

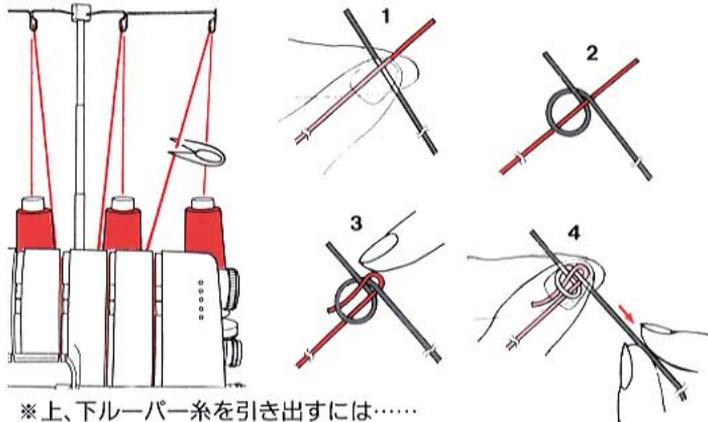
知っておくと ちょっと便利なこと

■布地の角で糸を切らずに かがり縫いをするには

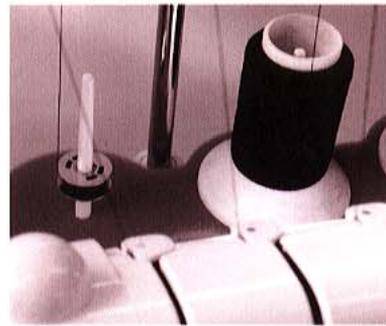
1).外角のとき

1. カット幅の角から3cm切り込みを入れます。

2. 一方の角まで縫い進んだとき、針を上げてから押えを上げます。
(1)で切り込んだところへ上メスを当てます。

3. 押えを下げてから縫い進みます。

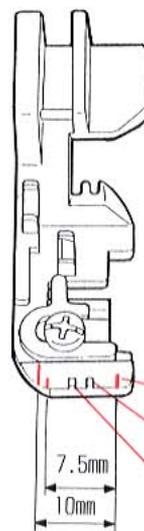
2).内角のとき

1. あらかじめカット幅まで内角のところへ切り込みを入れておきます。

2. 一辺を縫い始めたらもう一辺と一直線上になるように下側へ折ります。

3. このまま縫い進めますと内角が縫い終ります。

■糸を取り替える時、糸をつなぐには？

ほかの素材・色の糸に取り替える場合や、糸ゴマの糸の残量が少なくなってきた場合。第1糸案内より手前で、もとの糸と新しい糸を結び目の玉が大きくならないようにハタ結びで結びます。

※上、下ルーパー糸を引き出すには……
針を下までさげて、押えを上げます。はずみ車を¼回転ぐらい正逆まわし、上、下ルーパー糸を引き出します。

※針糸の引き出すには……
押えを上げてから針穴の手前で糸を切り、引き出して新しい糸を針穴へ通します。

■色糸の節約は針糸がキー

いくつも同じ色の糸ゴマを買うのは不経済。そこで使う糸の分量がずっと少ない針糸には、ルーパー糸から糸ゴマに取るか、普通のミシンのボビンを糸立棒に入れて使うこともできます。

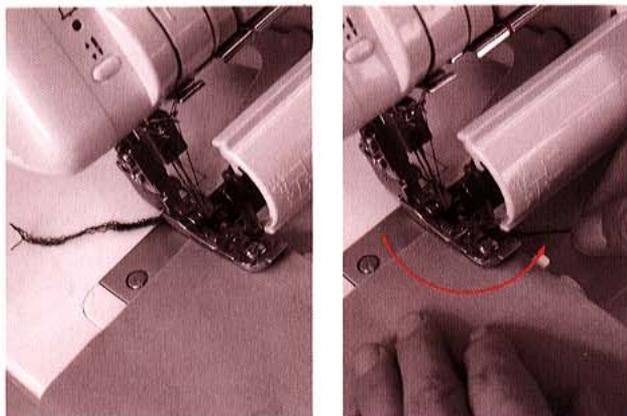
■押えの印について

布地を押えの下へ入れるとき押えの印をガイドとして使います。

メス位置(下メス調節つまみ目盛「2」のとき)
布地のカット位置です。
右針位置
左針位置

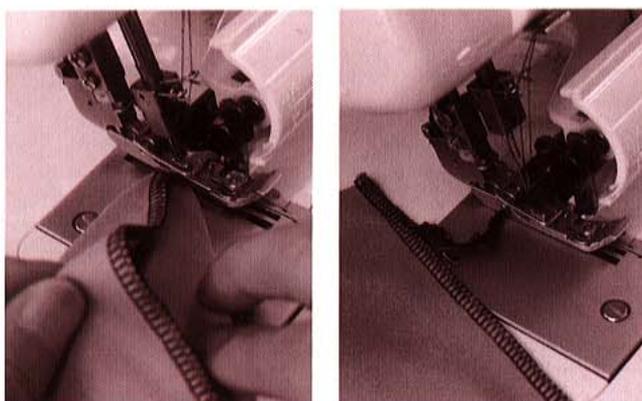
縫い始め、縫い終りの糸の始末・縫い目のほどき方

ロックミシンの場合、縫い始め、終りの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。その始末には４つの方法がありますが、お好みの方法をお選びください。

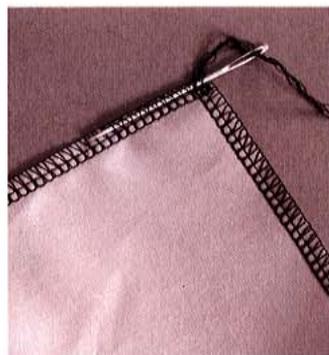
1).ロックミシンでの始末

① 縫い始めの糸の始末

1．空環を3〜4cm出します。
2．布地を入れ2〜3針布地の上を縫います。
3．押えを上げます。
（針は布地に落したままにします）
4．空環を押えの左側から前に持ってきて押えの下へ入れ、上メスの右側へ持ってきます。
5．押えを下げます。
6．縫い進めます。

※空環の余分な糸はメスで切られ、その上をかがり縫いをしますから縫い始めの糸はほつれません。

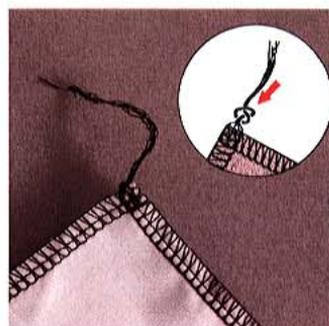
② 縫い終りの糸の始末

1．布地の終りで針を止めます。
2．針を上げます。
3．押えを上げます。
4．布地を裏返して、かがり幅に合せて針を落します。
5．押えを下げます。
6．今まで縫ったところが上メスに当たらないように2〜3cm縫い進み、布地をはずします。
7．空環の始末をします。

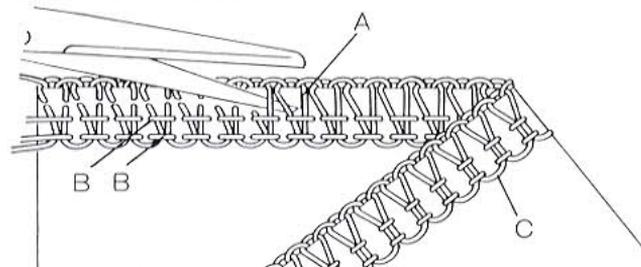
※これで普通のミシンの返し縫いのように、ほつれ止めが完了です。

2).トジ針を使う始末

縫い始め、終りの空環を2〜3cm残し、トジ針で縫い目の中に入れると縫い目はほつれません。

3).手芸ボンドでの始末

布上の空環の根元に手芸用ボンドを少しつけて10分間位で乾燥しますからその後、余分な空環を落します。

4).糸を結ぶ方法

４本、３本又は２本かがりの糸のすべてを１本にまとめて結び、結び目を布上ぎりぎりまでの位置にします。そして余分な糸を落します。

■縫い目のほどき方

●3本糸縁かがりの目ほどき

A部の糸をはさみで切り、針糸（B）を引っぱると縫い目がほどけます。

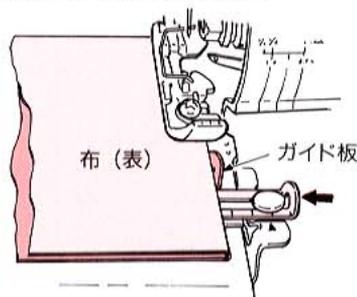
●4本糸縁かがりの目ほどき

上ルーパー（A）のすべてをハサミで切り、下ルーパー糸（C）を引っぱると縫い目がほどけます。

※市販のリッパーで目ほどきする場合

上ルーパー糸と下ルーパー糸を布端で同時にリッパーで切り進みます。そして針糸をところどころ（2〜3cm間隔）をリッパーでつまんで切りますと布地をいためず縫い目がほどけます。

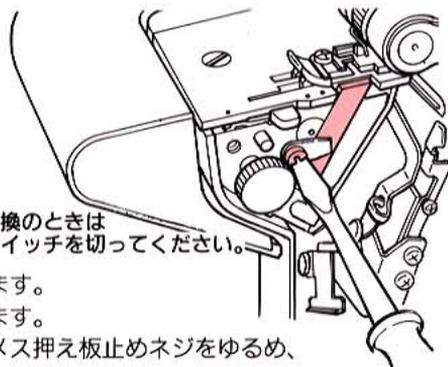
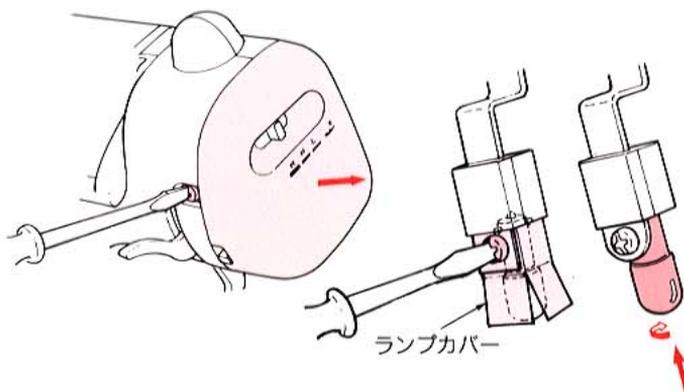
■2/3本糸の飾り縫い

1．ステッチガイドを取りつけ、ステッチガイドのガイド板を左いっぱいに押します。(14ページ参照)
2．上メスを解除します。(5ページ参照)
3．**2本糸の場合：**
 (1)2本糸切替えアタッチメントを取付けます。(6ページ参照)
 (2)下ルーパー糸を**飾り糸**にします。
  (針糸はフィラメント糸が最適ですが、スパン糸でも出来ます)
 (3)ステッチ選択ダイヤルを「E」に合わせます。
 3本糸の場合：
 (1)上ルーパー糸を**飾り糸**にします。
  (針糸と下ルーパー糸はフィラメント糸が最適ですが、スパン糸でも出来ます)
 (2)ステッチ選択ダイヤルを「D」に合わせます。
4．送り調節つまみは2～2.5に合わせます。
5．針は左針か右針か1本にします。
 左針の場合…幅の広い飾り縫いができます。(5～7mm)
 右針の場合…幅の狭い飾り縫いができます。(3～5mm)
6．布地を二つに折り、折り山をステッチガイドのガイド板に当てながら縫います。

7．縫い上ったら、二つに折った布地を開きます。

■上メスの交換

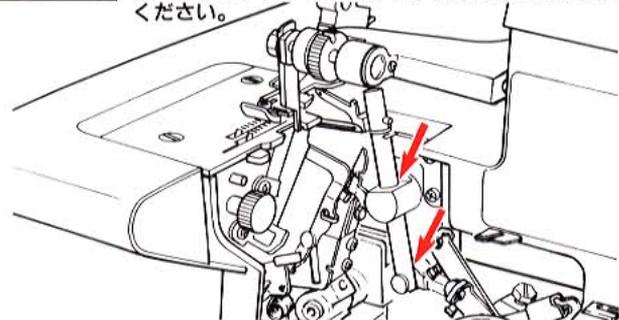
上メスは特殊超硬材を使用していますので、普通は交換する必要はありませんが、刃先がかけたとき交換します。
そのときは、お買い上げいただきました販売店にご相談ください。

■下メスの交換

1．針を一番上にします。
2．上メスを解除します。
3．ドライバーで下メス押え板止めネジをゆるめ、下メスをとりはずします。
4．新品(別売)の下メスを下メスホルダーの溝に入れ、下メスを突き当るまで下に押します。
 (下メスの刃先が針板上面と同じ高さになります)
5．最後に下メス押え板止めネジを強くしめて、固定します。
下メスはお買い上げ販売店でお買い求めください。

■ランプの交換

注意 **ランプ交換のときは電源スイッチを切ってください。**

1．押え上げレバーの上のネジをはずして、面部カバーを取りはずします。
2．ランプカバーとめネジをゆるめて、カバーをはずします。
3．ランプを上に押して、左にねじるとはずれます。
ランプの消費電力は12V 5Wです。
お買い上げ販売店でお買い求めください。

■掃除と注油

注意 **掃除、注油のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜き電源を切ってください。**

ミシンをご使用になりますと、綿ぼこりがたまりますので定期的にとり除きます。
このミシンには重要な部分に特殊材料を使用していますが、ご使用前に図示したところへ1～2滴注油してください。

■仕様表

項　目	仕　様
使用糸数	4本、3本、2本
使 用 針	左、右針ともHA×1SP11番、14番
かがり幅	2本針4本針 5～7mm 左針 5～7mm 右針 3～5mm（巻き縫い 2mm）
送り量（縫い目の長さ）	1～4mm（標準2.5mm）
差動送り比	0.7～N(1)～2.0
押え上げ量	5mm
縫い速度	最大1,500針/分
ミシンの大きさ（本体）	幅335×奥行300×高さ355(mm)
重　量（本体）	8.4kg
定格電圧/消費電力	100V/115W　50/60Hz
ランプ消費電力	12V/5W

■故障かな？ というときは……

次のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつけになる前にもう一度確かめてください。

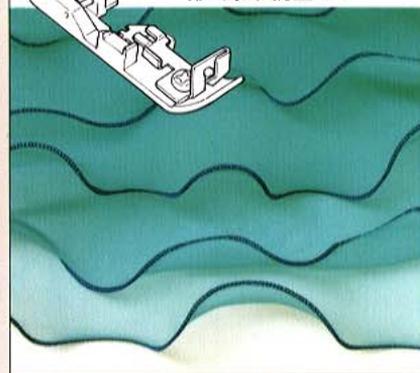
現　象	原　因　（理 由）	処 置 方 法	参考ページ
布地を送らない場合	①押えの圧力が弱すぎるとき。	・押え調節レバーを左側へ動かし押え圧を強くします。	5
針が折れる場合	①針が曲っていたり、針先がつぶれているとき。 ②針のとりつけ方が悪いとき。 ③布地を無理にひっぱったとき。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・縫っているときは布端に手をそえるだけにします。	5 5 —
糸が切れる場合	①糸のかけ方がまちがっているとき。 ②糸調子が強すぎるとき。 ③針のとりつけ方が悪いとき。	・正しくかけなおします。 ・糸調子を弱くします。 ・正しくとりつけます。	8〜10 11 5
目とびがする場合	①針が曲ったり、針先がつぶれているとき。 ②針のとりつけ方が不完全なとき。 ③糸のかけ方がまちがっているとき。	・新しい針にとりかえます。 ・正しくとりつけます。 ・正しくかけなおします。	5 5 8〜10
縫い目の調子が悪い場合	①ステッチ表示選択がまちがっている。 ②糸調子が不完全なとき。	・正しいステッチ表示記号を選びます。 ・微調整レバーで調整します。	7 11
縫いしわがよる場合	①針糸調子が強すぎるとき。 ②糸かけ方がまちがっていたり、必要以外の場所に糸がからんでいるとき。 ③差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。	・針糸微調整レバーを下に動かし、針糸調子を弱くします。 ・正しくかけなおします。 ・目盛を正しく合わせます。	11 8〜10 13

※上記の方法でも直らないときは、お買い上げ販売店にご相談ください。

■別売付属品

●ブラインドステッチ（まつり縫い）押え

●ゴムテープ付け押え

●コーティング（ひもつけ）押え

お買い上げ販売店にご相談ください

JUKI

JUKI 株式会社
〒182　東京都調布市国領町8-2-1
☎ 03-3480-5655

000695（T）